

街を皆で“niji-iro”に  
その種を届けるニュースレター

# にじのたね Vol.6

## 多様な性のあり方を知る【にじのこえ①】

### 多様な性を考える人々の声から 優しいまちの姿が見えてきました

LGBTや多様な性のあり方について理解を広めようという空気は仙台でも少しずつ浸透してきているように感じますが、誰もが暮らしやすいまちにするためには市民としてどのように考えていけばいいのでしょうか。

「にじいろキャンパスSENDAI」のメンバーや「せんだいレインボーDay」のボランティアにインタビューし、それぞれの体験をうかがいました。



左からゆきさん、わか  
なさん、まひろさん、  
かなえさん。にじいろ  
協働事業スタート  
の時から親子で参  
加してきました

### ちゃんと知ることで“違い”を越えたい

自分達の学校の制服のあり方について見直したことをきっかけに、多様な性について正しく知ろうと思ったという高校生のわかなさんとまひろさん。にじいろ協働事業には2018年からそれぞれ親子で参加しています。

「性別に関わらず服装を自分で選択できることは大切だと思いましたが、多様な性について知らない人からは否定的な意見もたくさん出ました。」(わかなさん)

にじいろ協働事業で活動したことで「こんな困りごともあるんだ」という気づきが次々と出てきて、伝えたい気持ちが強まったと言います。また、高校生と大人、ストレート<sup>※1</sup>と性的マイノリティ<sup>※2</sup>などの“違い”を意識することにより、疑問を感じるようになったそうです。

「“高校生とは”“性的マイノリティの人とは”という、誰もが知らず知らずのうちに持ってしまう固定概念を改めて感じる機会にもなりました。職業や年齢、セクシュ

アリティ<sup>※3</sup>など関係なく、個人を見てもらえる社会になると良いなと思っています。」(まひろさん)

「帽子はピンク、ランドセルは赤など、私たちは小さなころからバイアス<sup>※4</sup>をかけられて育っています。そのことでセクシュアリティに悩む人への配慮ができていなかったのではないかと感じる場面はたくさんありました。違いにとらわれず、丸ごと受け入れ合って、皆で楽しいことをしたいですね。」(わかなさん)

### いつの間にか自分ごとに。皆がありのままになれる

「皆で一緒にやっているという気持ちが1年目よりも強くなっています。“自分も多様な性の当事者”というスタートの時にはなかった気持ちが今はあります。」(ゆきさん)

「振り返ると、困りごとを知ったら何ができるだろうとか、尊大な態度が少なからずあったと思います。」(かなえさん)

柔軟な子ども達の姿に刺激を受けたり、自分の中にもあった生きづらさとセクシュアリティで悩む人の姿が重なったりするうちに、知らず知らず自分ごとになっていったとおふたりは話します。

「気が付いたら、自分も自分らしくいていいと思えるようになっていました。」(かなえさん)

「理解するしないでなく、実行委員会の皆と一緒に楽しめた時間が大切に感じられました。」(ゆきさん)

#### にじいろキャンパス SENDAI



東北HIVコミュニケーションズ、市民有志、仙台市が「にじいろのまちづくり」を目指して活動しています

#### せんだいレインボーDay 2019



エル・パーク仙台を会場に行われ延べ800名もの参加者で賑わいました(2019年7月13、14日開催)

## せんだいレインボーDay ボランティア



従業員の皆さんと一緒にせんだいレインボーDayでコーヒーを提供したかきたさん（中央右）

### 従業員のキャパの広さを知ることができた

仙台で飲食店を営むかきたさん。性的マイノリティの研修を実施したことをきっかけに当事者を採用した際、従業員が自然に受入れる姿に自社の良さを再確認できたそう。

「自己紹介からカミングアウトできる雰囲気でした。隠しごとがなく、風通しが良い組織であることを確認でき、本当にうれしい出来事でした。」

せんだいレインボーDayに参加した従業員からは「自社の取り組みのことを来場者に伝えたらありがとうと言われる、自分の会社は感謝される存在なのだと感じた」という声も。2日間参加しながら当事者と触れ合ったり、イベントで知らなかった事実や新しい価値観を知ったりと、皆さんにとって貴重な体験になったようです。

「一緒に働こうよとフランクに言える社風は、我々の誇りなのだとこのことを改めて感じることができました。」

## にじいろキャンパス SENDAIメンバー



2年目の今年はボランティアとして全力で楽しんでいるというまつもとさん

かえって良かったと思います。初めて知ったり、一緒に考えたりすることで自然と関係も出来た気がします。」

今年は個人的にボランティアに参加し、せんだいレインボーDayでも実行委員として活躍しました。

「皆さんから“まちを変えたい”という想いを感じ、そこに賛同しています。当事者、非当事者という境も意識しなくなり、今はこの絆を大事にしたいと思っています。」

### 直接触れ合うことで 楽しくなっていた

仙台市職員でもあるまつもとさん。性的マイノリティに関する事業の担当を任された時、プライベートでも当事者の方々の集まりに参加したことで、仕事を越えて楽しみなっていったそうです。

「イベントなど様々な活動を共に重ね、予想以上に皆さんと親しくなり、気持ちも解放されていきました。知識が無かったことが

身近な存在であると理解したり、その人らしく過ごせる環境について一緒に考えるなど、皆さんのお話からはできることがたくさんあることが分かります。そんな「優しいまち」を目指すことで、「誰もがありのままにいられるまち」になれる可能性をも秘めているのかもしれない。



## せんだいレインボーDay ボランティア

せんだいレインボーDayでは「まちかど保健室」で当事者の話を聞きました

### 教育現場の連携や意識統一の役に立ちたい

宮城学院女子大学の「にじいろプロジェクト」は養護教諭や保健体育教員を目指す方々が活動。せんだいレインボーDayでは“多様性を受け入れる学校”“皆が過ごしやすい学校”について参加者と一緒に考えたいと思い、ブースを作りました。

「イベント前日は実行委員の方々が練習相手になって下さり、様々なアドバイスをしてくれました。おかげで当日は自信を持って来場者に声をかけることができました。」

現在はこのようなチャンスを大切に“知ること”から始め、できることは何かを模索中です。

「大学生は子ども達の気持ちも、大人の気持ちも両方考えられる存在です。自分達が現場に入る時は性の多様性が浸透し始めていると思うので、学生の今だからこそできることを見つけて、将来のために学んでいきたいです。」

## せんだいレインボーDay スペシャルゲスト



尚絅学院中学高等学校合唱部と共演した清貴さん

### 「優しいまちづくり」を仙台発信で東北全体に

ゲイであることをカミングアウトしている仙台出身のアーティスト清貴さん。せんだいレインボーDayでは昨年に引き続き歌声を披露し、仙台への思いを語ってくれました。

「みんな同じ人間である事を思い出し、一人一人が優しい気持ちになる事で、笑顔の輪が広がっていくと思います。仙台がマイノリティの人たちに対して優しいまちになる事で、東北全体に発信できると思います。仙台出身者としてそうなる事を期待します。」

- ※1 ストレート=異性愛者。性的多数派を表現する言葉。
- ※2 性的マイノリティ=性のあり方が一般的なものと異なる人。少数派。
- ※3 セクシュアリティ=性のあり方。
- ※4 バイアス=さまざまな偏り。先入観や偏見。



# nijiro learning ～多様な性についてまなぶ～

## ●アライ(Ally)

Allianceの略で、同盟者、味方を意味する言葉。

「ストレート」は性的マイノリティでない人を表しますが、特にその中でも性的マイノリティについて理解したり、生きづらさを感じていることに共感したり、共に行動していこうとする人たちを「アライ」と言います。

マイノリティ(少数派)の声に耳を傾けることで「ふつう」というカテゴリーから「ストレート」であると認識したり、さらに理解を深め共感することで、「アライ」や「多様な性を生きる当事者」に変化していきます。



## ●ダイバーシティ

多様性や相違点という意味がある言葉。

本来はそれぞれに違ってそれでよいはずですが、そのような違いを受け入れにくい社会となっているのが現状です。「ダイバーシティ」について一緒に考えながら、活かしあっていこうという努力を続けたり、ただ見守ったりすることが必要な場合もあります。

意識的に違いを受け入れていくことで、知らないうちに他者を傷つけてしまったり、意見を言えなくさせてしまったりすることのない環境を作ることができます。

違いを受け入れた社会は、たくさんの声があがるようになります



## ●子どもの権利条約

国連で採択され1990年に発効された条約。日本も1994年に批准(ひじゅん。条約を正式に承認すること)し、国は子どもの権利を保障する責務を負うことになりました。

- ①生きる権利……命を奪われない、病気やけがなどの治療が受けられるなど
- ②育つ権利………共育を受け、休んだり、遊んだり、自分らしく育つことができる
- ③守られる権利…虐待(ぎゃくたい)や搾取(さくしゅ。しぼり取ること)などから守られる
- ④参加する権利…自由に意思を表したり、自由な活動を行ったりできる



子どもに関わる大人は子どもの権利についてよく理解し、ありのままの成長を尊重することが求められています。

## せんだいレインボー Day2019からの「にじのこえ」

### ～来場者より～

- あらゆる生き方、性、志向といったものが、特別なものではなく、あたりまえの世の中になるよう、自分自身が少しずつでも変わっていきたいです。
- 教育現場にいますが、性の多様性だけでなく様々な多様性が理解されず、本当の気持ちを言えない子たちがいると思います。生きづらさを抱えていることに気付いても、学校では受け入れ態勢ができていないことに歯がゆさを感じています。
- 沢山発信していった、個性を認めあえる、素敵な世の中になって欲しいと思います。
- 人を好きになるって、素晴らしいことですね。たとえどんなかたちでも、いがみ合うよりずっといいと感じました。

### ～トークセッションより～

- いろんな人がいる場は心地いい。様々な個性の人が集い、楽しめる場を作りたいです。
- 人生楽しいはずなのにそう思えない社会ってどうなのだろうと感じます。本当に楽しいと思えるきっかけ作りをしたい。
- 誰も置きざりにしない社会が大事だけど、制度の中では守られない人がどうしても出てしまう。ゆるく繋がって、各個人が健やかに生きていける方法を皆で考えていきたいです。
- 良い社会になっていくために、10代、20代の意見を皆で共有し合える場がどんどん増えていけば良いのではないかと思います。
- 差別は生きる力を奪ってしまう。どんな人も差別する側になってしまう可能性があることを忘れないでいて欲しいと願います。



# nijiiro topics

## ■コミュニティスペース『にじのひろば』

にじいろ協働事業では、多様な性のあり方の情報に触れ、参加者どうして話し合えるコミュニティスペース「にじのひろば」を開設します。多様な性のこと一緒に考えてみませんか？

日 時：毎月第4日曜日 13:30～17:30  
 2019年 10月27日、12月22日  
 2020年 1月26日、2月23日、3月22日  
 ※11月はお休みします

会 場：エル・パーク仙台 5階 創作アトリエ

参加費：無料 どなたでもご参加ください  
 (開催時間内出入り自由)



### ●安心できる場です

- ・呼んで欲しい名前を決めておきましょう。本名でなくて構いません。
- ・自分のことは話しても話さなくても大丈夫です。
- ・他の人のプライバシーを守りましょう。自分も守られます。

### ●自分のペースで

- ・質問されても言いたくないことは言わなくて大丈夫です。
- ・相談したいことがあればスタッフに声をかけて下さい。
- ・互いの発言を受け止め、尊重しあう時間にしましょう。

## ■よりそいホットライン

すべての人を「一人にしない」「社会から切り離さない」ことを目指して、24時間通話無料で電話相談に取り組んでいます。電話ガイダンスに従って、相談内容を選べます。

セクシャルマイノリティ  
 専門回線もあります。  
 (4番を選択して下さい)  
 Tel/0120-279-226



## ■東北HIVコミュニケーションズ

HIV感染症(エイズ)によって、自らの生命や生き方に影響を受けた人々が共に生きる社会をつくることを目的とし、1993年12月に設立。疾病やセクシュアリティなどに刻まれたスティグマ(汚名、恥辱などの意)を克服し、自らの力を回復して、自己決定して人生を歩むことができるよう、様々な集いの開催や相談活動、人材育成を行っています。



エイズ電話相談/022-766-8699  
 (第2・4土曜日、18～21時)

## ■みやぎ男女共同参画相談室 / LGBT(性的マイノリティ)相談

男女共同参画相談員によるLGBT相談を実施しています。要望により予約面談も受け付けています。

電話相談/022-211-2570  
 (毎月第2・4火曜日、12～16時。祝・休日を除く)

編集後記 / 多数派、少数派の境なく、多くの人が自分らしい暮らしを願っていると実感。仙台が優しいまちになることがイメージできたインタビューでした。(編集部)

●ご意見、ご感想、質問などお寄せください  
 にじいろキャンパス SENDAI / にじのたね係

## 多様な性のあり方の理解と課題の可視化について 多様な協働の場を創出する事業 市民協働事業提案制度

### ～にじいろ協働事業～

市民の一人ひとりが「多様な性」を自分事としてとらえられることを目的として「にじいろスピーカー派遣」「にじのたね」「にじのひろば」「せんだいレインボーDay」の4つの事業を展開しています。東北HIVコミュニケーションズ、市民有志、仙台市が「にじいろキャンパスSENDAI」を構成して推進します。

- ①にじいろスピーカー派遣  
多様な性のあり方についての講座などお手伝いします。
- ②ニュースレター・にじのたね  
仙台市の施設などで配布し、市民に広く啓発します。
- ③コミュニティスペース・にじのひろば  
仙台市男女共同参画推進センターで来場者とコミュニケーションしながら、情報を紹介したり、必要に応じてサポートを提供します。
- ④啓発イベント・せんだいレインボー Day  
多様な性のあり方に触れられるイベントです。

にじいろキャンパスSENDAI

(東北HIVコミュニケーションズ、性的マイノリティもそうじゃない人も含む市民有志、仙台市で構成)

事務局 〒983-0836 仙台市宮城野区幸町4-7-2  
 みやぎのいのちと人権リソースセンター内  
 東北HIVコミュニケーションズ  
 TEL/FAX 022-298-8532  
 [E-MAIL] office@sendai-nijiiro.org  
 [HP] http://sendai-nijiiro.org



発行 にじいろキャンパスSENDAI  
 発行日 2019年9月30日  
 デザイン・編集 トトライティング  
 発行部数 5000部  
 配布場所 市内公共施設や行政窓口、市内一部店舗  
 市内外の男女共同参画センター